

女子依存症回復支援センター

— 回復への道しるべ —

Since 2020



札幌刑務支所

女子依存症回復支援センター

～出所後の生活に近い環境づくり～

女子依存症回復支援センターでは、違法薬物の自己使用の問題を抱えた女子受刑者に対し、「薬物依存症からの回復」に焦点を当てた処遇を実施しています。

受刑が始まって早い段階から、出所後を見据えた支援計画策定等のために必要な、個々の受刑者のニーズを把握し、支援と直結した指導を実施することとしています。



ミーティングルーム



ミーティングルーム



多目的スペース



カンファレンスルーム



面接室

みのり寮

～出所後の生活に近い環境づくり～

プログラムを受ける受刑者は、夜間や休日は全員、みのり寮で生活しています。

みのり寮は全室個室となっていて、部屋に鍵はなく、寮内は自由に移動できるようになっています。円滑な社会復帰につなげるため、社会の生活に近い環境をつくっており、居室には、ベッド、たんす、学習机等が備え付けられています。また、寮内には共用スペースとして、余暇時間に談話や読書などができるホールが設けられているほか、洗面スペースに洗濯・乾燥機等も備え付けられています。



プログラムや作業を通じて、みのり多い時間を過ごしてほしいという思いを込め「みのり寮」と名付けました。



ホール



ホール



ミーティングルーム



居室



浴室

週間スケジュール

(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	刑務作業				
午後	NA/AA メッセージ ミーティング	手仕事 & アート	生活術	ソマティクス (ボディーワーク)	プリズン ブック クラブ
	センター ミーティング	コアプログラム	センター ミーティング	コアプログラム	センター ミーティング

1日のスケジュール (平日)

6:40	起床
7:20	朝食
7:40	出寮
7:50	朝のミーティング
8:30	刑務作業
11:50	昼食
12:30	プログラム
14:05	運動
14:40	プログラム
16:10	夕のミーティング
16:40	夕食
17:00	帰寮
18:00	余暇活動
22:00	就寝

平日の半日は刑務作業をして、残りの半日はプログラムを受けて過ごします。

プログラムは、1コマ90分を一日2コマ実施し、全7種類から構成されています。

また、日課開始前には「朝のミーティング」で、今日の気分と体調を、日課終了後には「夕のミーティング」で、日課を終えた気分や疲れ度を10段階で表し、皆で共有します。

寮内での余暇活動の時間は、談話や読書、テレビの鑑賞のほか、日中のプログラムで出た宿題等をして過ごします。

刑務作業

女子依存症回復支援センターでは、プログラムとの相乗効果を期待した処遇を実施するため、心身に与える効果が期待できる農作業などを取り入れ、いちごの栽培や生花のブーケ製作などを行っています。

また、いちごを購入した消費者からの声をフィードバックすることで、働くことへの喜びや意欲の喚起を図る工夫もしています。



コアプログラム

女子依存症回復支援センターの受刑者に向け開発されたテキストを用いて、グループワークを実施しています。

プログラムは女性特有の問題に着目し、受刑者自身が、様々な角度から自己を取り巻く環境との相互作用について理解を深めることを促し、再発のメカニズムを構築する多様な要素について認識した上で、いかに再使用に陥る要素を避けて行動することができるか等について、具体的に考え、理解を深めていくことを目的としています。

また、薬物使用に至った女子受刑者の傾向として、生活環境や異性等との対人関係、家族関係上の問題、心身の疾患、不定愁訴、DV等の被害経験等の問題を抱える者が多く、これらが出所後の薬物依存からの回復を困難にしている要因であると考えられるため、このような問題に着目したプログラム構成となっています。

テキストは、全42セッションで構成されています。「回復支援センター編」の34セッションを受刑中に実施し、出所時にテキストを持ち帰り、「地域生活編」の8セッションを出所後に実施することで、受刑段階から出所後の支援と直結した指導を目指しています。



センターミーティング

与えられたテーマについて考え、自らの体験に照らし合わせて話をするを目的としたミーティングです。

他人に批判されることのない、安心して話することができる空間を作り上げることを大切にしています。

また、他の受刑者の話を聞くことで、新たな視点で物事を考えるきっかけを与えることも目的の一つです。



NA/A A メッセージミーティング

依存症からの回復過程を歩んでいるNAやAAのメンバーを迎え、自助グループがどのような場所で、どのような活動を行っているのか等を紹介いただくとともに、メンバーからのメッセージを運んでいただきます。

自助グループに参加することに抵抗を感じている受刑者も、自助グループがどのようなものであるということ、回復にあたり必要なものであるということ、受刑中に知っておくことで、出所後NAやAAに参加することへの抵抗を減らすことを目指しています。

手仕事&アート

創作活動としてコラージュや刺し子等を行っています。テーマに応じて、自由な発想で作品を作り、非言語による表現をしていきます。手先を動かす細かな作業をすることで、脳への刺激にもつながります。



生活術

暮らしに関わる様々な知恵や技術を学びます。受刑者個々のニーズに応じた情報提供だけでなく、社会適応訓練（SST）の手法を用いた情報活用を体験させます。

出所後、社会生活に適応していくための方法を習得する機会を逃してきた受刑者が、社会の仕組みや暮らしの質を担保するために必要な知識等を学び、出所後の生活に役立てることを目指しています。

プリズン・ブック・クラブ

書籍の音読を通して、物語の世界を体感するとともに、様々な言葉や表現に触れることで、言葉に対する感度を高め、また、未知の領域への関心を発掘していきます。

使用する書籍は、小説・学術書・詩・絵本等、多岐にわたります。



ソマティクス

薬物使用の動機のひとつとして、「痛み」の除去があります。支援センターでは、公認ハンナ・ソマティクスエドゥケーターの指導により、身体の筋肉を収縮・弛緩させ、自らの身体への感度を上げています。最終的には、筋肉の動かし方を習得し、自身で痛みや凝りに対して手当てをすることができるようになることを目指します。



ケア会議

～出所後の支援～

女子依存症回復支援センターでは、出所後の支援を担う保護関係機関のほか、自助グループ、医療機関等の関係者を交えたケア会議を開催し、個々の受刑者にとって、どのような出所後の支援が必要であるかを受刑中に検討し、円滑な社会復帰を目指しています。



施設の沿革

- 令和元年 12月 ビニールハウス設置
- 令和2年 3月 女子依存症回復支援センター改修工事完了
- 令和2年 4月 収容開始（収容定員30名）

札幌刑務支所 女子依存症回復支援センター

〒007-8603札幌市東区東苗穂2条1丁目5-2
TEL:011-784-5241(代表)